

令和5年度第4回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和6年2月8日（木）14：00～16：30

場 所：琉球大学病院3階がんセンター及び各施設（ハイブリッド会議のため）

出席者：【がんセンター】7名

玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、横田美佐（県立宮古病院）、西村克敏（地域統括支援センター）、増田昌人（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

【ZOOM参加】7名

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、上原弘美（友愛医療センター）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、大久保礼子（琉球大学病院）

欠席者：2名

樋口美智子（沖縄国際大学）、島袋百代（ハンキョウジャハン沖縄アフィリエイト）

陪席者：2名

大嶺真希（琉球大学病院事務）、松田亮子（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和5年度第3回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和5年10月26日）

資料1に基づき、仲宗根委員より、令和5年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

【協議事項】

1. 次年度の委員の選任について

資料2に基づき、増田委員より、委員構成について確認が行われた。部会長・副部会長についての選任は次年度の部会で決定することとなった。

2. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）における所掌分担について

資料3に基づき、増田委員より次年度の協議会活動の重点事項について説明があった。また、各部会の進捗状況を幹事会で実質的な審議をし、協議会でその中の重点事項に関してディスカッションする為、部会の開催時期について協議会の2カ月前にあたる4月、7月、10月、1月開催の提案があり承認された。

3. ロジックモデルを用いた次年度の活動計画について

資料4に基づき、増田委員より部会計画について第4次計画（協議会案）を基に個別施策を検討し、次年度部会として具体的にどのように活動していくのか協議していただきたいと述べられた。初期アウトカムの各分野から8つ選びその中から最も重要な項目を3つ～5つ選定し、個別施策のカラムに書き込んでいくこととなった。

- 拠点病院以外でがん診療を行っている医療機関に、相談ができるような人材を育てることや相談者を受け入れる態勢があるなど、がん相談員研修を受講している人材を増やすなど必要。（仲宗根委員）
- 全国と比べて沖縄県として一番足りてない事や業務の中で足りてない事、組織的にやった方がいいこと等はどうか。例えば、目の見えない方、聞こえない方への情報提供など。（増田委員）
- 外国人の方への展示についても必要ではないか。（玉城委員）
- コミュニケーションに配慮が必要な方は少数ではあるが、即時対応できる体制は必要であるとする。優先かどうかについては皆さんから意見をききたい。また、沖縄県では拠点病院以外の病院でがん患者を診ている割合が多い状況で、相談センターに繋がる体制や、研修を受けられるなどの予算の確保もしてほしい。（仲宗根委員）
- 研修を受講するために予算や年数がかかりかかった現状がある。部会主催の実務者研修会もあるが、もっと非拠点が参加しやすい体制があるといい。相談センターの相談員と顔が見える関係性、相談しやすい体制があるといい。（上原委員）

増田委員より、がん診療病院に現在勤務し研修を受講した方や、過去5年間で研修会への参加者がどの病院等に勤務しているのか現状を把握し対策していくといい。その結果を協議会へ提案する事も可能と説明があった。仲宗根委員より、現状把握のため、部会開催の研修会参加者について各拠点で確認し報告すると回答があった。次年度の活動については、今月中に具体的な意見を事務局あてにメールで提出することとなった。

4. 国立がんセンター認定がん相談員の申請について

資料5に基づき、増田委員より認定がん相談員の申請について説明があった。申請方法、資格取得について部会で共有していくこととなった。

5. 国立がん研究センター認定がん相談支援センターの申請について

資料6に基づき、紙面報告となった。

6. 新指定要件のうち満たしていない項目について

資料 7 に基づき、増田委員より新指定要件及び現況調査報告項目の確認が行われた。

7. PDCA 実施状況チェックリスト 2023 年版

資料 8 に基づき、増田委員より PDCA チェックリストについて説明があった。

8. アピアランス支援モデル事業と次年度の活動について

資料 9 に基づき、増田委員より、厚生労働省委託事業アピアランス支援モデル事業について説明があった。また、今年度の活動について、院内・院外の医療従事者に対する勉強会と患者に対する相談会を実施したと報告があった。次年度は強化費を使用し継続していく計画である。要望があれば事務局へメールをいただきたいとアナウンスがあった。

9. アピアランスケア支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における部会の取り組みについて

資料 10-1 及び当日資料 1.2 に基づき、小波津委員よりアピアランス支援事業について説明および事業開始に伴う協力依頼があった。沖縄県では申請要件として、「事前にかん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの相談支援を受けていること」としている。がん相談支援センターの周知を図ることと利用促進、また患者さんをアピアランスケアへ繋ぐことを目的としている。また市町村からアピアランスの相談の問合せ等の負担軽減の面も含めて要件を設定している。

小波津委員より、補助の対象は、部分かつらや毛付き帽子など種類の指定はなく、医療用に限らないこと、複数の用具の合算で申請可能と周知していただきたいと補足があった。

10. 若年がん患者在宅療養生活支援事業(沖縄県若年がん患者等支援事業)における部会の取り組みについて

資料 10-2 に基づき、小波津委員より事業の概要について説明があった。全国 15 県で実施されている事業で、沖縄県でも QOL 向上を目指す事業となっている。

11. その他

次回開催日について候補日を調整することとなった。

【報告事項】

2. 地域統括相談支援センター活動報告

資料 11 に基づき、西村委員より相談件数及び活動報告があった。相談内容は、がんの治療についてと日常生活についての相談が多かった。ピアサポーター派遣事業では、

ピアサポーターが参加することで、参加者に安心感を持っていただいたり、ピアサポーターの体験談を聞き前向きな姿勢がみられた。オンラインサロンでは、病気以外の趣味の話題で笑顔の多い会であった。10月は沖縄産業まつりに出店し、がんピアサポート展を開催。今回は相談ブースがなく冊子のみの展示となった。11月はリレー・フォー・ライフ 2023 おきなわに参加。がんピアサポートを開催し、前半は資生堂ジャパンの方がアピアランスの講演を行い、後半は全国がん患者団体連合会の天野さんを中心に患者サロンを行った。アピアランスの講演では多くの方が参加し好評であった。その他、11月に第3回沖縄県地域統括相談支援センター事業評価会議を開催した。

3. がん患者ゆんたく会（10～12月）

資料 12-1～12-3 に基づき、令和5年10月～12月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について各委員より報告があった。中部病院のゆんたく会について玉城委員より報告があった。各回講演はなくフリートークでの開催。10月は栄養について相談したい参加者がおり、栄養士と個別相談していただいた。家族に話せないこともこの会に参加することで気持ちが楽になったなどの感想があった。那覇市立病院は糸数委員より報告。11月16日に開催しフリートークで行った。初めて参加の方で医療費について質問があり、ピアサポーターや参加者の体験談を話して頂いた。また、アピアランスでは爪のケアが気になるとの声があった。琉球大学病院は友利委員より報告があった。薬剤師の先生と緩和ケアの看護師による講演。またアピアランスの講演を開催した。各回、副作用についての話題になり参加者同士で情報共有していた。また、11月のフリートークでは小グループができ、それぞれソーシャルワーカーや病棟の師長が入って密な話ができたと感想があった。

4. がん相談件数（10～12月）

資料 13-1～13-6 に基づき、令和5年10月～12月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

相談者の年齢は70代以上の方が多く、10月は40代・50代の終末期の相談が多かった。在宅療養を含め自宅の見取りについての相談が多く、訪問看護の方と密に連絡を取りながら調整をおこなった。また、地域の薬局によっては薬の準備ができないことがあり、診療所と当院で薬を提供するなどの連携が多くあった。

○県立中部病院（玉城委員）

ソーシャルワーカーが介入し在宅療養の連携が多かった。また、8月にゲノム医療連携病院として 慶應義塾大学病院と連携し、9月から院内の患者対応を始めており、次年度は院外の対応も検討している。がん相談支援センターも患者のサポートとして

多職種と連携を取りながら関わっている。

○那覇市立病院（糸数委員）

がんの種類では、大腸がん、肺がんが一番多く、副作用やがん治療、在宅医療、医療費制度についての相談件数が多かった。仕事が多忙で検査の日程調整が難しい方に治療と仕事の両立支援について情報提供し、相談センターが支援できることを伝え、後日受診の計画を立てられたというケースがあった。その他、ターミナル期で急遽、訪問診療、訪問看護へ連携し繋いだり、栄養指導で栄養士へ対応依頼したケースもあった。

○県立宮古病院（横田委員）

初めて相談の方で、転移が見つかり末期の状態で見取りの相談が多かった印象。検診率が悪く検診率を上げるために、院長が講演などに取り組んでいる状況である。

○県立八重山病院（岩崎委員）

一般のクリニックから救急で搬送された方が、すでにターミナル期で在宅療養のため訪問診療に繋がったケースがあった。一般の病院にもがん相談支援センターの周知が必要だと感じた。また、独居で外来に来なくなった患者を訪問診療した際、自宅で動けなくなって救急車を要請し搬送した事例もあった。改めて外来を通して患者の状況を把握することが大事だと思った。

○琉球大学病院（友利委員）

治療開始前の件数が増えているが、診療科や緩和ケアの看護師から先生の IC があり、ホスピスの情報提供などターミナル期の介入が多かった印象。また、院外からの相談件数が平均すると 20 件となっており、もう少し周知することにより院外からの相談も増えると思う。

5. がん相談件数集計

資料 14 の通り、各拠点の相談件数集計に基づき友利委員より報告があった。治療状況項目の診断なしと治療前の件数を、治療開始前にかん相談支援センターを訪問したと解釈し、4 月～6 月は拠点病院全体の 20%、7 月～9 月は 17%であった。それ以降についても集計し次回の部会で報告する。

6. がん相談支援センターの広報

資料 15 に基づき、がん相談支援センターの広報について友利委員より報告があった。毎週掲載するよう依頼し 12 月のみ 1 回掲載がなかった。引き続き広報依頼を行う。

7. 第2回及び第3回がん相談員実務者研修会

資料16-1、16-2に基づき、がん相談員実務者研修会について、第2回を中部病院の玉城委員、第3回を琉大病院の友利委員から報告があった。第2回は在宅療養に向けて症状緩和に使用される薬剤について知ろうというテーマで開催。第3回は自己肯定感を高める支援をテーマに、沖縄県の医療ソーシャルワーカー協会と提携し開催した。拠点病院以外の訪問診療所のワーカーの参加もあった。

8. 第21回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会(令和5年11月24日)

資料17に基づき、友利委員より報告があった。PDCAチェックリスト2023はロジックモデルをもとに新しく作成していると報告があった。このチェックリストを必ず使用するという事ではなく、それぞれの市町村の独自性、個別の事情に応じて使用しているのではないかとの意見があったと報告された。

9. 九州沖縄ブロック 地域相談支援フォーラム(令和5年11月25日)

資料18に基づき、友利委員より報告があった。九州各県の取り組み発表、がん相談支援センターの今後についての講演があった。相談員間のグループワークでは、相談者とのコミュニケーションで大切にしている事をテーマに話をした。相談した甲斐があると感じてもらえるような環境づくりや、相談員自身のモニタリングも大事だという意見があったとのことだった。

10. その他

大久保委員より、がんセンターの大嶺氏を通じて沖縄県からピアランス事業の一環として、チラシを作成するために、県内統一版のがん相談支援センターのチラシを参考にしたいと申し出があったと報告があり、チラシの使用について承認された。チラシに掲載されている各病院の電話番号に変更がないか、直通番号の掲載が可能かについて確認があった。また、次年度にはチラシの内容を見直して再配布したいので詳細を後日相談したいとアナウンスがあった。